

大阪産野生マウス由来近交系MMNG系統の特性解析

○和田あづみ、加藤秀樹¹、六車香里²、江袋美知²、西村正彦³、都築政起⁴（大阪府大・農、¹浜松医科大・動物実験施設、²(財)実験動物中央研究所、³名古屋大・医、⁴広島大・生物生産）

【目的】MMNG系統は、1991年2月に大阪府箕面市で捕獲された野生マウス(*Mus musculus molossinus*)を起源に育成した系統である。本系統は1996年3月に全兄妹交配20世代に達し、近交系として成立した。そこで本研究では、このMMNG系統の基礎特性を明らかにすることを目的とした。

【材料と方法】MMNGマウスの形態学的および遺伝学的基礎特性の調査を行った。各調査では、適宜他の近交系を用いて比較検討を行った。

【結果と結論】MMNG系統雌個体の体重は、生後30日齢時点で $7.97 \pm 0.13\text{g}$ 、生後60日齢時点で $11.67 \pm 0.57\text{g}$ であり、もっとも広く用いられている日本産野生マウス由来近交系MSMの生後30日齢体重 $7.13 \pm 0.12\text{g}$ 、生後60日齢体重 $11.10 \pm 0.65\text{g}$ と比較すると大柄な傾向が認められた（30日齢において $P < 0.01$ ）。遺伝学的プロファイル調査として実施した生化学的標識遺伝子の28マーカー、および免疫遺伝学的標識遺伝子の9マーカーの検索では、調査したマーカーすべてが既報のタイプと一致した。PCR-SSLP法を用いて調査した35DNAマーカーでは、一般的な近交系C57BL/6N、静岡県三島市で捕獲された野生マウスに由来する近交系MSM、愛知県名古屋市で捕獲された野生マウスに由来する近交系MOM、大阪府堺市で捕獲された野生マウスに由来するMSKA、MSKD、ならびにMSKR系統とのあいだにはそれぞれ88.6%、45.7%、62.9%、57.1%、48.6%、および48.6%のマーカーに多型が存在した。